

R7 コミュニティスクール調査 まとめ

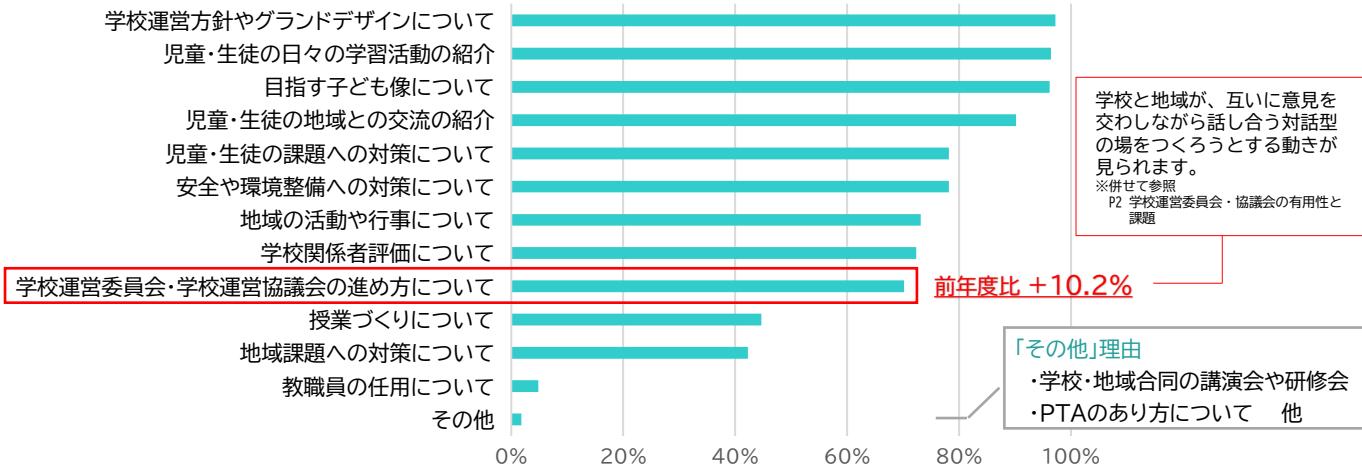
長野県教育委員会事務局生涯学習課

本調査は、地域とともにある学校づくりのさらなる推進に向け、各校におけるコミュニティスクールの取組についておたずねしたものです。

- ・調査期間 令和7年7月～8月
- ・調査対象 公立小・中・義務教育学校 527校
- ・回答数 499校 ※1 (回答率95.3%)

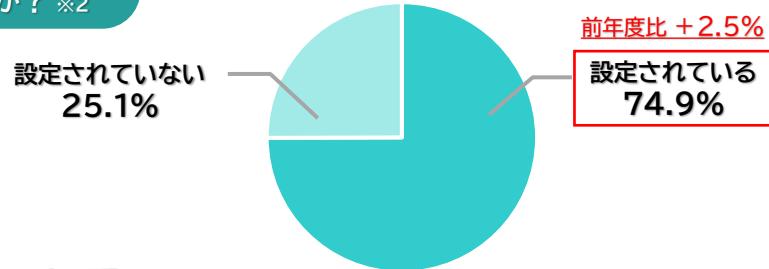
学校運営委員会・学校運営協議会の組織や編成について

扱われる内容 (複数回答)



学校と地域による目標の設定について

Q. 地域と学校の対話により、納得と合意の上で「目指す子ども像」が設定されていますか？ ※2



地域コーディネーター※3 の配置について

配置の有無



「配置されていない」理由 (複数回答) 【新規】



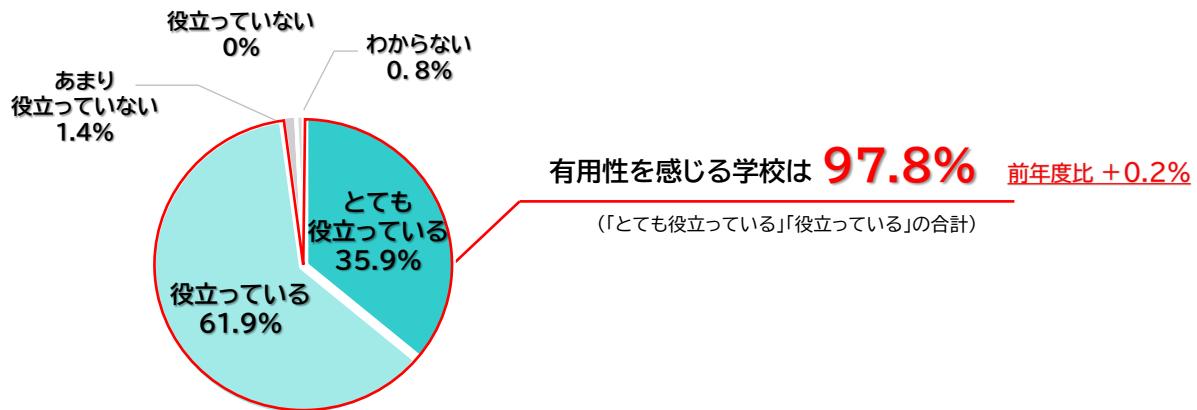
※1 小中学校合同による回答を含む

※2 委員同士で十分な対話が行われているとは言えない場合（例：学校が提案し、対話なく多数決で決定等）は、「設定されていない」を選択

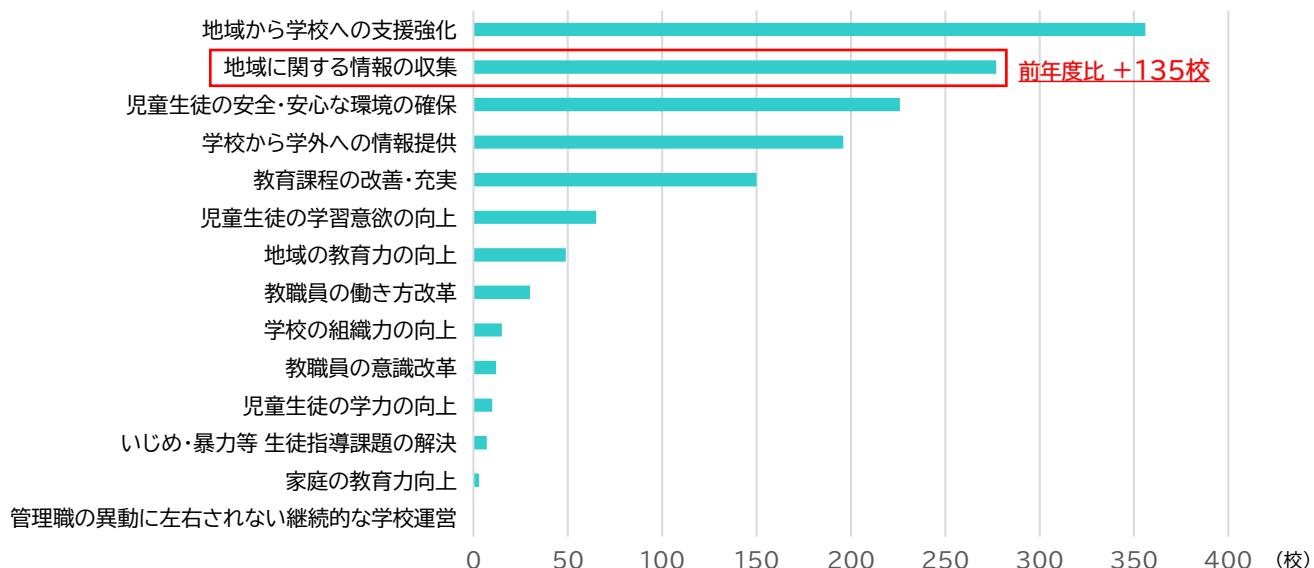
※3 学校職員以外。地域学校協働活動推進員及び都度派遣される場合やエリアでの配置の場合を含む

学校運営委員会・学校運営協議会の有用性について

Q.学校運営委員会・学校運営協議会は、学校運営に役立っていますか？



とても役立っている・役立つてると回答した理由 (上位3つまで選択)



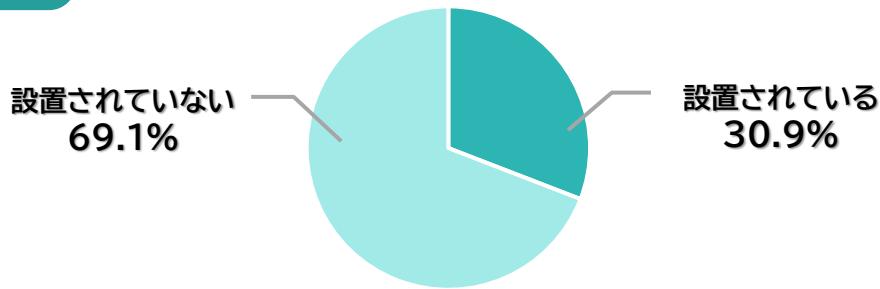
あまり役立っていない・わからないと回答した理由 (抜粋)

- ・年度初めの学校運営の方針や具体的な運営計画の周知、年度末の評価のみで形式的な会議となっている。
- ・委員全員で話し合って学校運営の改善に繋げていくというよりは、学校側や教育委員会からの説明で終わっている。
- ・学校運営委員会が何かを企画する、実行するということではなく、概ね学校がイニシアチブをとっている。
- ・学校支援という点では役立っているが、学校運営という点ではあまり感じない。
- ・CSが、学校のためのボランティアという意識が抜けきらない。
- ・学校に対してとても協力的でありがたい一方、地域の役員になったから仕方なく引き受けて負担に感じているとの話を聞いたので申し訳なく思う。
- ・自治体全体の会議と構成メンバーがほぼ重なっており、同じような場が2つあることになっていることから、学校としての組織は不要ではないか
- ・生徒の学校生活の向上に直接寄与している部分があるのか分かりかねる。
- ・昨年度、委員会が開催されていない。

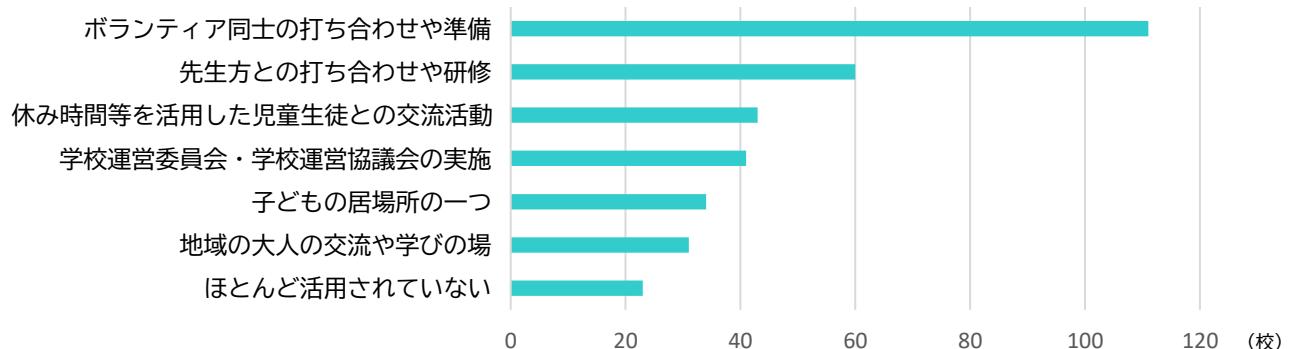
他

コミュニティルーム(ボランティアルーム)※4について【新規】

設置の有無



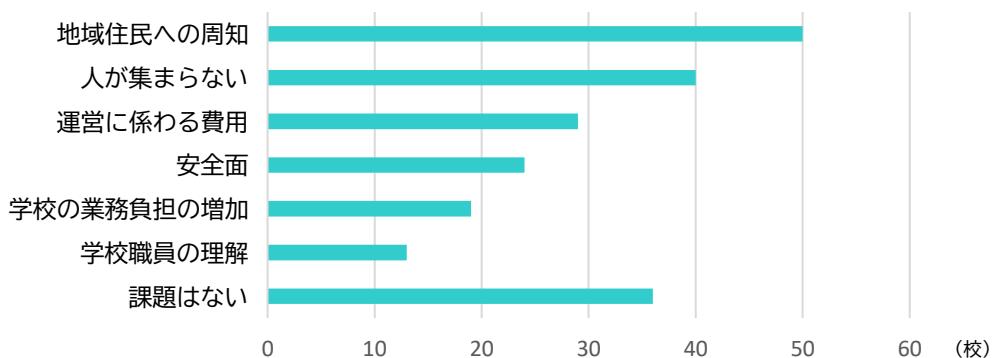
コミュニティルーム(ボランティアルーム)の活用内容 (複数回答)



「その他」活用内容

- 放課後子ども教室の実施
- 地域の方々の自主的な活動の場 (ベルマーク整理)
- 学習ボランティアの活動場所として
- 同窓会をはじめ、地域の方々との関わりについての資料保管
- 他

コミュニティルーム(ボランティアルーム)の課題 (上位3つまで選択)



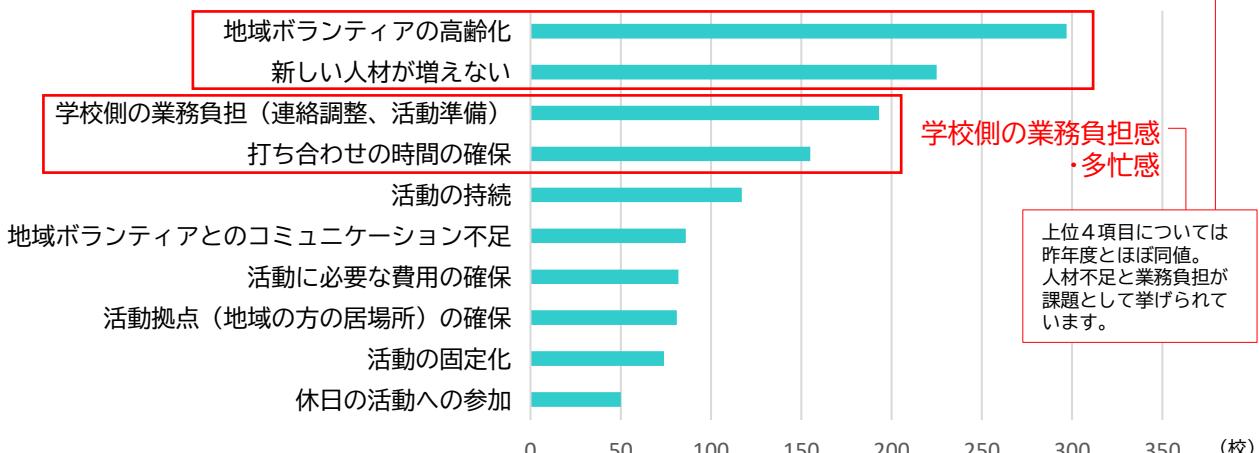
「その他」課題

- 空調設備がない (多数)。
- コミュニティルームの運営を、学校主体ではなく地域に委ねたいが、適任者が見つかっていない。
- 管理責任者が不明確でありルールが守られない、もしくは、個人の方針・趣味趣向によって偏った使い方になることがある。
- 場所は動かしようがないが配置場所が入口から遠い。
- 部屋数が少なく、専属でボランティアルームだけにすることができない。
- 他

※4 名称に関わらず、地域住民や学校ボランティア、関係者等の活動の拠点となる部屋。大きな部屋の一画を仕切る場合も「設置されている」と回答。

地域学校協働活動の課題 (上位3つまで選択)

地域ボランティアの高齢化・固定化



コミュニティスクールを進める上で工夫していること (抜粋)

○学校運営・組織・体制

- ・学校職員の理解を深めるための場づくりと情報提供。
- ・コミュニティスクール担当を校務分掌に位置づけ、地域との連携窓口としている。
- ・地域一体のコミュニティスクールとして、保育園と合同で設置している。
- ・公民館主事との連携を大切にし、必要と思われる研修会には公民館、学校で一緒に参加して共有している。

○地域と学校の日常的な関わり

- ・コミュニティルームを地域と学校、そして子どもたちとのコミュニケーションの拠点としている。ただ過ごす場所ではなく、「ほっとできる」「自分らしくいられる」「思いを言葉にできる」そんな居心地のよい空間として機能するよう心掛けている。また、不登校やさまざまな課題を抱える児童にとっても、大切な居場所となるように、一人ひとりの心に寄り添う支援の場として活用している。
- ・地域と合同研修（非違行為防止研修、ワークショップなど）の開催、授業参観・研究会への参加呼びかけ。

○業務負担軽減

- ・委員や学校支援ボランティアへの連絡は、できる限り紙配付を行わず連絡配信アプリを活用している。
- ・共有ファイルへ月ごとにボランティアを必要とする学級・時間を学校側が入力し、ボランティアの方が参加可能な日に名前を入れる。コメント機能で授業の内容や持ち物などを各担任が書き込んで情報を共有。
- ・コーディネーターを外部から登用することによって、職員の業務の軽減や意識の醸成を図っている。
- ・運営をリードしてくれているのが公民館であり、内容の確認、レジメ作り等は公民館の主事が担当。

○子どもたちの参画

- ・コミュニティルームの運営に、6年生が関わっている。
- ・地域の課題でもある防災について、生徒と地域と一緒に避難所設営ゲームを行い、対話する機会を設けた。
- ・有志生徒が地域に貢献するための橋渡しとなるサークルを組織し、毎週水曜日に活動している。
- ・生徒をまちづくり協議会の教育文化部会の部員として参加させていただいている。

○学校運営委員会・学校運営協議会の工夫

- ・委員会では、常にアクションプランに立ち返り、見直しを図るようにしている。
- ・学校運営協議会の場に児童、CS、学校職員が共に語り合う時間を設けている。
- ・授業参観や行事に参加していただいた後に会議を開き、子どもの姿を通して話し合いをする。
- ・年1回は町内の学校と合同で行うことで、互いに刺激され、考えや行動・活動に幅が出ている。

○地域コーディネーターとの連携

- ・地域コーディネーターが日々学校にいることで、地域との連絡や調整、発信に役立っている。
- ・地域コーディネーターを窓口に、学習活動や行事等を中心に学校だけでは解決できない課題等を相談し、解決に向けて尽力いただいている。

○その他

- ・お互いに無理はしない。「できることを、できるときに」「自然なつながり」を合言葉にして行っている。
- ・ボランティアの方が得意なことや発信したいことを、自由に子どもたちに伝える（発表する）場を不定期で設けている。ボランティアと子ども・教職員がつながる手段の1つとなっている。
- ・大学生が関わる「地域連携プロジェクト」の充実と、「留学生との交流」の枠組みづくりを進めている。
- ・県の生涯学習課のCSアドバイザー派遣事業を活用し、三校合同で研修会を行っている。